

Business Overview | セグメント別 事業概況

船舶事業



主な事業領域

商船 / 艦船・官公庁・練習船 /
エンジニアリング /
海洋開発 /
特機・水中機器 / 修繕

主なグループ会社

三井E&S造船株式会社
株式会社三井造船昭島研究所
MES由良ドック株式会社
四国ドック株式会社

新潟造船株式会社
MES SHIPPING株式会社
TGE Marine Gas Engineering GmbH

連結の受注高は、練習船やばら積み貨物運搬船などを受注しましたが、前期と比べて112億円減少の575億円となりました。売上高は、建造船工事の減少などにより、前期と比べて227億円減少の924億円となり、営業損失は、不採算工事の減少などにより、前期と比べて8億円改善の20億円となりました。

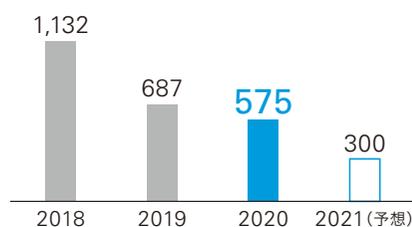
2020年度の主な取り組み

- 千葉工場での建造船をすべて完成、引渡し
- 造船事業の協業展開が進展し、艦艇事業などの譲渡契約及び商船事業の資本提携に向けた子会社株式(三井E&S造船)の譲渡契約を締結
- 設計のライセンス供与、環境対応船の開発・設計受託業務などの営業活動を展開

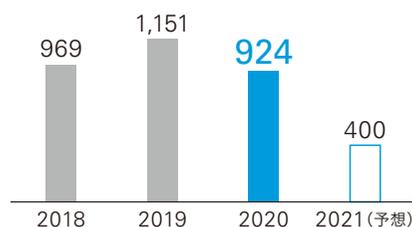
●売上高構成比



●受注高(億円)



●売上高(億円)



●営業利益(億円)



護衛艦「くまの」命名・進水式挙行

2020年11月19日、三井E&S造船 玉野艦船工場において、三菱重工業(株)より受注した防衛省向け3,900トン型護衛艦の命名・進水式が執り行われ、「くまの」と命名されました。本艦は2018年度に2隻建造を計画された護衛艦であり、多様な任務への対応能力の向上とコンパクト化をコンセプトとしています。また、新たな取り組みとして、主契約者である三菱重工業(株)長崎造船所(1番艦「もがみ」と三井E&S造船 玉野艦船工場(2番艦「くまの」)による同時建造というスキームを採用しています。現在、岸壁にて艀装工事を行っており、2022年3月に引渡し予定です。



機械・システム事業



主な事業領域

船用推進システム /
運搬機システム / 産業機械 /
ロボティクス / レーダ /
研究実験設備・特殊構造物 /
アフターサービス

主なグループ会社

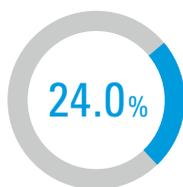
株式会社三井E&Sマシナリー	三造加工株式会社
株式会社加地テック	株式会社三井E&Sテクニカルリサーチ
株式会社三井E&Sパワーシステムズ	株式会社アヅママシナリー
三井ミーハナイト・メタル株式会社	PACECO CORP

連結の受注高は、新造船市況の低迷にともなう船用ディーゼル機関の減少及び新型コロナウイルス感染症の拡大に伴う投資先送りによるコンテナクレーン、産業機械などの減少により、前期と比べて490億円減少の1,253億円となりました。売上高は、造船所での生産調整の影響を受けて船用ディーゼル機関の引渡し先送りになっていることなどにより、前期と比べて132億円減少の1,590億円となり、営業利益は、売上高の減少などにより前期と比べて21億円減少の98億円となりました。

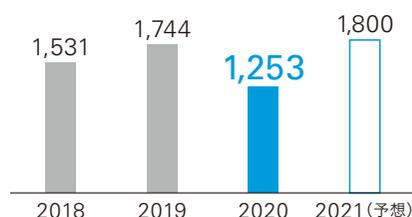
2020年度の主な取り組み

- ガス燃料船用の主機を成長分野と位置付けて営業活動を展開
- 大型船用ディーゼル機関148基(331万馬力)を生産
- 将来の排出ガスゼロに対応可能な「ニア・ゼロ・エミッション トランステーナ」の需要が堅調
- アフターサービス事業は環境規制へ対応した部品サービス、レトロフィットビジネスが好調

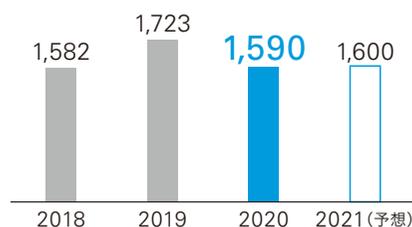
● 売上高構成比



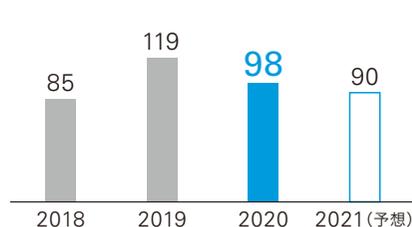
● 受注高(億円)



● 売上高(億円)



● 営業利益(億円)



水素バリューチェーン推進協議会への参画と、水素燃料電池搭載トランステーナ[®]開発着手

三井E&Sマシナリー及び加地テックは、水素分野におけるグローバルな連携や水素サプライチェーンの形成を推進する新たな団体「水素バリューチェーン推進協議会」に加入し、水素社会の実現に貢献します。具体的な取り組みの一つとして、2022年度中に純水素燃料電池(FC)を搭載したトランステーナ[®]の実証試験を完了させる予定です。また、水素ステーションや水素出荷設備向けなどの水素ガス圧縮機も提供していきます。



海洋開発事業



主な事業領域

洋上石油・ガス生産

主なグループ会社

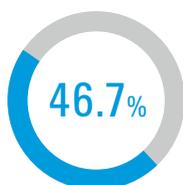
三井海洋開発株式会社

連結の受注高は、FPSO建造プロジェクトなどを受注しましたが、前期と比べて3,153億円減少の3,208億円となりました。売上高は、FPSO建造工事が進捗したものの、前期と比べて229億円減少の3,099億円となり、営業損失は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴う影響を織り込んだことなどにより、前期と比べて169億円悪化の218億円となりました。

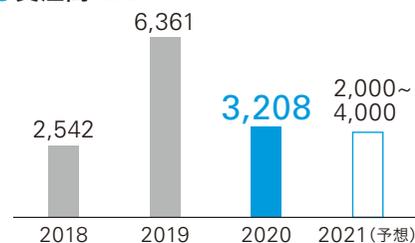
2020年度の主な取り組み

- セネガル向けFPSOのO&M(運転・保守点検)契約を受注
- 新型コロナウイルス感染症の拡大により進行中のFPSO建造工事に遅延が発生し、採算が悪化
- 浮体式洋上風力発電において、低コスト化技術開発に関する調査研究を開始

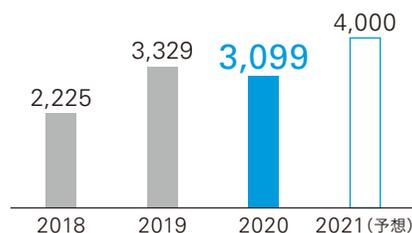
●売上高構成比



●受注高(億円)



●売上高(億円)



●営業利益(億円)



セネガル沖合サンゴマル鉱区向けFPSOのオペレーション&メンテナンス契約を受注

当社グループ会社の三井海洋開発は、オーストラリアのエネルギー大手であるウッドサイド・エナジー社より、西アフリカ・セネガル沖合初の海洋油田開発プロジェクト向けとなる記念すべきFPSOを2020年1月に受注し、建造を進めていますが、同年12月には、本FPSOのオペレーション&メンテナンス(運転・保守点検)契約も受注しました。同社が受注したのは、客先へのFPSO引渡し後10年(その後1年毎×10回の延長オプションあり)の長期契約であり、同社の地理的観点での事業ポートフォリオの最適化だけでなく、長期的な観点での安定収益基盤拡大にも寄与するプロジェクトになると期待されています。



エンジニアリング事業



主な事業領域

海外発電土木

主なグループ会社

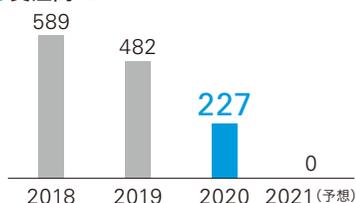
株式会社三井E&Sエンジニアリング

連結の受注高は、前期に化学プラント事業の子会社を譲渡した影響などにより、前期と比べて255億円減少の227億円となりました。売上高は、新規受注を控えた影響に加え連結子会社の減少により前期と比べて312億円減少の384億円となり、営業利益は、前期に多額の受注工事損失引当金を計上したことにより717億円改善の3億円となりました。

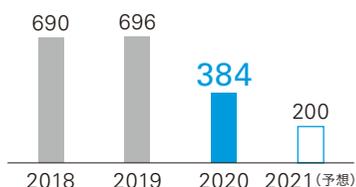
●売上高構成比



●受注高(億円)



●売上高(億円)



●営業利益(億円)



2020年度の主な取り組み

- インドネシア向け火力発電所土木建築工事は想定の範囲内で進捗
- ベトナム向け火力発電所土木建築工事を完成、引渡し
- バイオマス発電事業子会社(市原グリーン電力)を譲渡
- 環境事業子会社(三井E&S環境エンジニアリング)の譲渡契約を締結

PICK UP

千葉県市原市のバイオマス発電所の商業運転開始

2020年12月17日、伊藤忠商事(株)、大阪ガス(株)及び三井E&Sエンジニアリングの3社が共同出資する市原バイオマス発電(株)が商業運転を開始しました。本発電所は、千葉県市原市の三井E&Sホールディングス千葉事業場内に位置しており、三井E&Sエンジニアリングが施工を進めてきました。燃料の全量に木質ペレット及びパーム椰子殻(PKS)を使用するバイオマス発電所(発電容量49.9MW)であり、一般家庭約12万世帯の年間消費電力量約3.5億KWを賄うことが可能です。今後、当社グループ会社が運転及び保守を担当するなど、出資各社の強みを活かした安定的な発電所運営を行っていきます。



その他部門

主な事業領域

不動産 / ITソリューション / サービス

主なグループ会社

株式会社三井E&Sビジネスサービス
三井E&Sシステム技研株式会社 / 株式会社MESファシリティーズ

●売上高構成比



●受注高(億円)

503

●売上高(億円)

640

●営業利益(億円)

15